

長野県に新たに加わる植物

横 内 斎

I. Yokouchi: Some new plants to Nagano Prefecture

ツルコウゾ *Broussonetia kaempferi* Sieb.

上水内郡信州新町の想田稔司氏が、昨年5月ツルコウゾではないかという木本の標本を持参された。見ると、茎は長く延び、雌雄異株であるといい、葉は長楕円状で表面は無毛、裏面は有毛、葉脚は大体底平である等、大井博士の記載とよく一致するのでそうであろうと答えておいた。同時に、ぶっかき苗を恵まれたので庭の一隅に植えておいた所、幸い根づいて勢よく生長し、側枝でさえも1m余にも伸び、葉は長楕円形暗緑色で強い光沢がある。葉の裏面は相当深い有毛で、葉脚も底平である。しかし一つ気になる点は、一つの小枝の葉の片側1個所に、浅いにぶい切れ込みが見られることである。まだ花を着けないから何とも言えないが、疑点が残る。今の所上記のものとして報告しておく。採集されわざわざ持参された同氏に感謝の意を表する。

ミノチイカリソウ *Epimedium × yokouchianum* F. Maekawa

トキワイカリソウとキバナイカリソウの雑種と考えられる。今からおよそ20年前、飯山市富倉峠の頂上近くの杉林の中に白紫とりどりのイカリソウの一群落を見た。近づいて見ると白、紫色、まだらのものが入り混って非常に美しく咲いている。もし各特徴によって分類するとすれば10種ぐらいのグループにわけられる。そこで紅紫色の比較的強いと思われるものと、黄色の比較的強いと思われるものと、その中間と思われるもの三株を根こぎにして、持ち帰って庭に植えて観察した。3～4年たつと両極端の色はうすれて、中間と思われるものに近くなり、なおも1～2年するうちに全部中間と思われるものに統一されて約10年を経た。その後毎年標本を作って誰かに同定をお願いしようと思いながら今日に及んだ。今年(48年)になって、東大名誉教授の前川文夫博士に同定をお願いした所、前記の学名をおつけ下さった。和名は下水内郡に10余年もお世話になったので、それを記念してミノチを使った。御同定を頂いた前川博士に厚く御礼を申しあげる。

ミノチイカリソウは、花色が殆んど白に近い淡赤色で、距と弁の先が赤味を帯び、葉が越冬する。木蔭のものや雪にさらされたものも、緑色は失ってもちゃんとそのまま立っている。葉が越冬し紅色の色素の入ることはトキワ系であるが、その色はごく淡く、距と弁先の赤味もトキワイカリソウ程濃くない。これはキバナイカリソウの性質が入ったからである。また、葉裏の毛(古い葉で)が整一でなく、トキワイカリソウよりも疎で、しかも種々の角度に生えている。この点はキバナイカ

リソウからきていると見てよい。トキワイカリソウの葉裏の毛は葉裏に圧着しており、太平洋岸のイカリソウでは、毛は密で直立している。

ウツクシシャジン *Adenophora nikoensis* Fr. et Sav. var. *recurvata* F. Maekawa

信州美ヶ原の北端三才山峠附近の烏帽子岩は奇峯である。ここにヒメシャジンの変りものがある。今年松田行雄氏と三男の横内文人の両名をわずらわして、これを採集した。この変種は、茎が懸垂性で（栽培してみると地上に茎が平行する）、花冠が反捲し、雌蕊が長く花外に抽出する。なお、興味あることは雄蕊が花中で一回旋することである。花色は紫色か白色である。これも前川博士にお願いして前記の学名を得た。和名は、地名の美ヶ原は世に名高いが、植物にはそれを冠称するものがなかったので、ウツクシシャジンとした。御命名下さった前川博士と採集に御協力下さったお二人に、厚く御礼を申しあげる。

シマガヤ（シマヨシ・チグサ） *Phalaris arundinacea* L. var. *picta* L.

クサヨシの葉に縞の入る美しいもの、園芸品としてもよい、長男横内正之が東筑摩郡坂井村で昨年6月採集したもの、同定を頂いた林弥栄林学博士に御礼を申しあげると共に長男正之の労を多とする。信州植物界の一員に加える。

イワヨモギ *Artemisia iwayomogj* Kitam.

去年までの茎は殆んど木質であるのに、今年の茎は草質で、葉をもんでかぐとヨモギ臭が強い、小葉が殆んど茎迄もつくという点も他の植物と違う。岩淵潭氏が東筑摩郡四賀村横川の小字水上の山中で採集され、昨年9月中旬私宅に持ち来られた。分布が北海道、千島南部、樺太、朝鮮、満州のはずであるので、念の為、前川博士にお送りした。先生は多大のお心を寄せられ、「飛越し型分布」の一例といわれた。本種を採集恵与された岩淵潭氏に感謝の意を表する。

ハイハマボツス（ヤチハコベ） *Samolus parviflorus* Rafin.

上原幸夫氏によって関田山脈の桂池と茶屋池から採集され、同市蓮の丸山利雄氏を経て私の手許に届いた。分布は本州、北海道、北米にある。これも飛越し分布型の一例であろう。前記二氏に厚く御礼を申しあげる。

（追記） ミノチイカリソウおよびウツクシシャジンは、正式にはまだ発表になっていない。

（T. S.）

イヌコリヤナギの枝垂 南安曇郡奈川村追平の山地にイヌコリヤナギの枝垂れがある。幹は根元から3本に分かれ、根元は土をかぶっているが、周囲は1mに近いものとみられた。樹高は1m程で低い、急斜面にあたるため垂れた枝先の1部は根元よりさらに70cmほど下まで下っているみどとな枝垂れである。ふつうのイヌコリヤナギに比べれば、新梢は暗紅色を帯びて極めて細く、年々の生長も大へん短いので、この種としては珍らしい老大木である。イヌコリヤナギの枝垂れは、文献に記載がみられないので、新品種シダレイヌコリヤナギ *Salix integra* Thunb. f. *pendula* Okuhara とよび、大切に保存したい。（奥原弘人）